

行政視察報告

目黒と横須賀で 議会改革学ぶ

議会運営委員会

10月24日～10月25日

設置し、令和2年8月から88回開催。会派代表者による即決で提言をまとめ、LINEを活用したワクワクン予約などを実現させたそうです。

議会運営委員会は、友好都市の東京都目黒区議会と議会BCP（業務継続計画）、神奈川県横須賀市で政策提言について調査してきました。

BCPはコロナ対策でも機能

平成31年に策定した目黒区議会のBCPは、災害等が発生した時の議会と議員の行動指針などを事前に取り決めています。具体的には、区の対策本部に合せて議会も災害対策会議を設置し、各議員が把握した被災情報などを集約して対策本部へ提供します。新型コロナウイルス流行時にも対策会議を

おのせ康裕議長をはじめとする議員の皆さんと意見交換の時間もいただき、東日本大震災時の支援に感謝を伝えるとともに、今後の交流についてアイデアを膨らませました。

計画的に政策提言

横須賀市議会は、改選後すぐに政策検討会議（各会派代表十無会派はオブザーバー参加）を設置し、4年間の任期中に取り組む政策立案と議会改革を協議しました。それを実行計画にまとめ、確実に成果を上げていきます。令和元年から4年度



横須賀市議会の政策提言に関する取り組みを視察

までの計画に盛り込んだ内容は、各会派や無党派からの提案を採点評価して決定。提案した会派が主導して素案をつくり、子どもの権利を守る条例制定などにつなげました。進捗状況はこまめに公表しており、議会改革も議員定数の見直し、議会報告会の広報公聴会化などを達成しました。

北海道名寄市・江別市 行政視察

民生常任委員会

10月2日～10月4日

持続可能な地域医療を目指すために

民生常任委員会で、北海道名寄市で「地域医療連携推進法人（上川北部区域）」について調査して

きました。地域で質の高い効率的な医療提供体制の確保をするため、名寄市立総合病院と士別市立病院が連携し法人設立に至った背景や医師を含めた医療従事者の確保策、ICTを活用した医療と介護の連携等の説明



持続可能な地域医療を目指し、先進地を調査

を受けました。日本の医療を取り巻く情勢は、都市部を除き、地方では医師の確保が難しく、財政状況も苦しい足腰が弱い医療提供環境となっています。当圏域においても、誰もが安心して暮らし続けられる医療提供体制を維持していかなくてはなりません。

当二次医療圏域は市立病院を中心に、救急救命や急性期疾患、慢性期、回復期医療など多岐にわたって医療提供を行っています。市立病院の将来を考え

るとき、岩手県際をも医療圏域とする構想とし、経営力アップにつなげていくことが肝要と思われまます。

子育て支援施設の設置に向けて

江別市では、子育てひろば「ぼこあぼこ」が商業施設の中に設置されています。天候に左右されない屋内施設として重宝され、平均利用者数は、土・日は三百人に上るとのことです。市外からの利用者も多く、子育て相談窓口も充実しており、定期的に助産師の相談日を設け、乳児の計測や妊産婦の相談にも対応していました。利用者アンケート等を実施し、利用者の声に耳を傾け、常に新しい施設運営を目指しています。直営で続けられるのか」といった議論も起き始めていました。本市においても必要な子育て支援施設として、先進事例を視察してきました。